

2024. 5. 24. (FRI).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『海外留学』

昨(23)日、留学説明会を行いました。主に国際挑戦科の生徒を対象にしたものですが、それ以外のコースの生徒も少なからず参加していました。本校では、高等学校在籍中に留学することを推奨しており、特に国際挑戦科では3か月・6か月・1年と、長期の留学も可能なカリキュラム



になっています。方面はニュージーランドとカナダ。どちらも世界の治安がよい国の中でもトップレベルにあり、女の子の留学先としては安心できる国です。

2つのエージェンツ会社の方がそれぞれの留学先や向こうでの学びについてプレゼンされました。その内容は実に魅力的で、私も聴いていて『行ってみたい!』と感じましたし、親の立場になれば『行かせてみたい!』と思ったところです。

実は、今も国際挑戦科の2年生の中にはこの両方の国で学んでいる生徒がいます。また、3年生は既にそのプログラムを終えて帰国してもいます。プレゼンの中で、3年生が当地へ行って2か月余りたった頃のインタビューが流されましたが、一様に『初めは苦労けれど今は楽しく過ごしている。絶対に来てよかった。』と答えていました。

ところで、私には2人の息子がいます。上の息子は公立中学校で国語の教師をしています。下の息子は現在タイのバンコクで働いています。その下の息子が今から8年ほど前のこと、「1年間、大学を休学して留学をさせてほしい」と言い出しました。

昨日もそんな話がされていましたが、彼が言うには、「これからは日本の中だけで働く時代ではなくなる。今後、日本企業は市場を求めてどんどん海外に進出していくことになるからそれに応じて日本人はもっと海外で働く必要が出てくる。英語力を身に付けることと海外で生活することを通して生きた勉強をさせてほしい。」というのです。

息子たちは自宅から大学に通っていたので一人暮らしの経験はありません。妻は心配と寂しさで戸惑っていましたが、本人の思いと決意は固く、応援することに決めました。まず驚いたのは費用です。『留学にはこんなにお金がかかるのか!』とビックリしたことを思い出します。それでも何とか工面して1年間ロス・アンジェルスに行かせました。通信機器の発達もあって頻繁に連絡を取ることもでき、思っていた不安はどんどんなくなっていきました。大学卒業と同時に海外に支社をもつ企業に就職を果たし、海外勤務を希望し続けてきた彼にやがてそのチャンスが巡ってきました。20歳代でマネージャーとして現地の人の上司となって頑張っています。因みに、タイではある程度裕福で優秀な人は、日本の企業に就職するために英語を勉強するそうです。

生徒の皆さんには、自身の可能性を思いっきり伸ばして欲しいと思います。息子の経験からも、生徒の皆さんには絶対にこの機会を活かして留学をしてほしいと思います。ただ、昨日も言うておられましたが、光華の皆さんはラッキーです。高い留学費用を出して行かせてもらえることに対する感謝の気持ちは決して忘れないでください。

2024. 5. 17. (FRI).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『おもてなしの心』

今週は多くのお客様をお迎えし、学校全体でよい緊張感をもって対応することができました。

14日(火)には京都市内を中心とした中学校の進路指導主事の先生方、15日(水)には京都市内を中心とした学習塾の先生方、そして16日(木)は中国北京市周辺の高校の校長先生方です。

14日と15日の学校説明会の目的は、教育内容を中心に本校の実態を詳しく知って頂き、『この学校なら安心して生徒を送れる』と思ってもらうことです。

**北京市近郊の高校の先生方に対して**

16日は、京都光華女子大学がご来校頂いた高校の卒業生を留学生として受け入れるねらいがあり、その際に本校とも友好関係を結ぼうということで実現しました。

お客様をお迎えするにあたって、私の役割は最初のあいさつです。冒頭の校長のあいさつで、その学校の雰囲気や大体知ることができるということは、立場が反対の場合に経験して理解しているだけに重責を感じながら行いました。

昨年度を上回る中学校と学習塾の先生方が来られ、私の話真剣に耳を傾けてくださいました。このエッセイの中で校長の思いや考えを生徒や保護者の方に伝えていることを話したり、毎日撮り続けて“アット・KOKA”にアップしている写真の中から最新のものを紹介しながら学校の雰囲気を感じたりしてもらいました。最後に、『預かった生徒たちを大切にすること』ということを強調もしたつもりです。

参加された方々にアンケートを記入してもらいました。最後に「京都光華をどのような学校だと感じておられるか」という設問を設けてあります。

面倒見がよい 生徒に丁寧に寄り添ってくださる 安心して生徒を送れる

大学への内部進学があって進路保障の面でも安心 生徒の力を伸ばしてくれる

落ち着いた学校 礼儀・マナー教育が特徴的 スポーツにも力を入れている

頂いた回答をみると、概ね私たちが大切にしてきた内容が書かれており、進路指導をされる方々に本校教育の思いが伝わっていることが感じられて嬉しく安心しました。

16日の北京周辺の高校の校長先生方も、本校教育の内容や授業中の生徒の様子を見られてたいへん感心されたようです。中には自分の娘を通わせたいからと「学費は幾らかかるのか」と具体的な質問をされる方もおられたほどです。“very cheap”という言葉が飛び出し驚きもしました。中国、特に北京近郊の私立高校に通うためにかかる費用がどのくらいか知りませんが、おそらくそれと比較され、更にうちの生徒の学ぶ様子から判断されての言葉だったのだと解釈しています。

それぞれのお客様への対応で、教職員が特に大切にしていたのが「おもてなしの心」です。また、そのことは生徒にも伝えていきます。笑顔で明るく挨拶をする生徒に触れて、私たちの説明が証明されたのだとも思っています。皆さん、お疲れ様でした。



2024. 5. 11. (SAT).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『自分で考えて行動すること』

一昨日、小中高合同で避難訓練を実施しました。想定したのは地震です。我が国は世界でも有数の地震多発国で、残念ながら何年かに一度は死者を伴う大地震が発生しています。ここ京都市南部には“花折断層”が通っており、それが動いて大地震が起こる可能性は少なくありません。現に今朝も小さな地震ですが発生しました。だからこそ常に備えを徹底しておく必要があります。そこで、避難訓練などの行事の際にそのことを真剣に考えさせる機会を設けています。一昨日の講評では、次の5つのことを強調し、訓練後の学活（HR）でも担任の先生とその内容を深めてほしいと伝えました。

- 1 先生の指示に従う
- 2 騒がない・慌てない
- 3 小さい子を優先する
- 4 避難者を支援する
- 5 家族と話をする

本校敷地には小学1年生から高校3年生までが生活しています。中学生と高校生には小さな子どもたちに心を配り、何ごとも優先させてほしいと伝えました。また、不幸にも被災した場合に学校は地域の避難所になり、多くの地域住民が来られます。その際には教職員と一緒に避難者の支援に手を貸してほしいことを強調もしました。阪神淡路大震災や東日本大震災の時に学校が避難所になった際、中学生や高校生が大活躍をしてくれて大いに頼りになったということを友人から聞いたこともあります。

人は危機的な状況に置かれたとき、その人間性が現れるものです。「自分だけ・我先に！」と行動するのではなく、常に周りの状況を冷静に見て、「全体の中の一人」として最善の行動がとれるようにしてほしいと思います。

また、今日は「授業体験会」と題して入試イベントを実施しました。中学校入試では英語活動と華道体験を、高校入試では華道体験をしてもらったところですが、参加してくださった保護者の皆様や小中学生は、イベントを盛り上げようと活躍する本校生徒の姿に感心されているようでした。

ピンクのポロシャツに身を包んだ“フラワーズ”の生徒たちの他に、私のあいさつの場面には中学ソフトテニス部と高校スキー部のキャプテンを連れ出しました。汗をかいた練習着姿の生徒が現れて参加者の皆さんは驚かれたことだと思います。彼女らは、今朝突然依頼されたにもかかわらず、見事に私の質問や指示に従って本校をPRするコメントをしてくれました。“フラワーズ”の生徒たちや2人のキャプテンが、自分で考えて生き生きと行動し発言する生の姿は、本校の様子を知ってもらう上で、教師のどんな説明よりも説得力があったと思います。

すべての生徒が、京都光華のために自分のすべきことを考えて行動してくれることが、本校をより良い方向へ導いていく最善の方法であると改めて感じたところです。



2024. 5. 7. (TUE).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『輝く姿』

GW が終わりました。そして、今年もまたたくさんの試合の応援に行きました。それぞれの試合で、学校で見せるのとは異なる生徒の姿に触れ、教師としての喜びを感じたところです。現在のところ、中学生の体育系の部というと、右の写真の通りバドミントン部と陸上部とソフトテニス部があります。

(※スキーはこの時期には試合がありません。)

バドミントンの試合では、勝てない相手ではないとは思ったのですが、上手くリズムが合わず相手のペースで試合が進行。ミスも重なって惜しくもセットカウント1-2で敗れました。

陸上競技では、100m・200m・100mH・1500m・走り幅跳び・4×100mRでそれぞれ優勝、800m・円盤投げで準優勝と、今年もまた圧倒的な力を発揮して総合優勝を果たしました。

怪我で長く練習を休んでいた選手が本番で久しぶりに全力疾走しました。周囲の心配をよそに見事にカムバックを果たしての優勝です。また、予選で不本意な成績で決勝に臨んだ選手が1位でゴールテープを切ることもできました。これらの結果の背景にはそれぞれのドラマがあることが想像できます。そのことが感動を覚えさせます。選手たちはまだ15歳以下ですが、よく自分自身を見つめ、心身が鍛えられ、必要に応じて気持ちを切り替えて試合に臨んでいます。本当に凄いことですし見事です。

団体は、2位が26点、3位・4位が23点のところ、何と68点を獲得しての優勝でした。上の写真は総合優勝を果たした際の表彰の様子です。

ソフトテニスは、3年生が全国大会の前哨戦に出場するため石川県へ遠征をしていた関係で、5日の準決勝と決勝は1・2年生で戦うこととなりました。それでも皆が力を発揮して危なげない優勝を果たしました。3日に行われた個人戦では、ベスト8は本校選手が独占。その後の試合で上級生が下級生に敗れるという波乱も起こりましたが、どの試合も見事な戦いぶりでした。私も経験がありますが、下級生が勢いをもって向かってくると、精神的な重圧がかかって案外やりにくいものです。最終的に第1シードの3年生が優勝を果たしましたが、準優勝に輝いたのは本校の1年生ペアでした。私が会場に着くなり、目に涙を一杯にためて試合結果の報告に来てくれた3年生ペアがいました。1年生に負けた悔しさが全身から感じられました。また、学校に帰って解散になるや否や、3年の2人がコートでボールを打ち始めました。

次の公式戦は全国へつながる夏の大会です。今回の反省を活かして、今日から頑張って練習してほしいです。そのことを通じて心身を鍛えてほしいと願っています。



2024. 4. 25. (THU).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『2つの花まつり』

桜の木がすっかり緑色に替わりました。一方、道路沿いのハナミツキが美しく色づいています。また視線を下げると、ツツジやサツキが咲き始めてもいます。春は彩りが鮮やかで私たちの目を楽しませてくれますね。

さて、今春は2つの「花まつり」を経験しました。「学園花まつり」と「仏青連花まつり」です。後者については後ほど詳しく述べることにします。「花まつり」はお釈迦様の誕生をお祝いする仏教行事です。そういえば、幼い頃、私の生まれ育った地域でもこの行事がありました。意味も分からず、春の温かさの中でワクワクしながら友達とお釈迦様に甘茶をかけていたのを思い出します。

「学園花まつり」は19日（金）に行われました。今年も素晴らしい天候に恵まれて盛大に催されました。会場は生徒が持ち寄った色とりどりの花にあふれ、楽しい雰囲気の中で進行しました。大学校地のテニスコートに園児から高校生までが集まります。大学の授業も休講で、多くの大学生や関係者の方が周りで観ておられました。

開会に先立って小学生と中高生の吹奏楽団を先頭にパレードが進みます。中高生のバトントワリングはひと際参加者の目を引きまします。中高の聖歌隊の美しい歌声が会場に響きます。そのような中、代表生徒による献灯・献花、散華（さんげ）、灌仏（かんぶつ）と行事は進行します。最後まで明るく華やかな雰囲気は続き、中学生高校生たちも十分に楽しんだことだと思います。

今日25日（木）には「仏青連の花まつり」が行われました。仏青連とは、正式には「京都府中学高等学校仏教青年会連盟」と言い、京都府内にある仏教系の12の私立学校によって組織されています。宗派こそ異なりますが、仏様の教えに思いを寄せつつ自らの生き方を見つめ直すとともに、各校が刺激し合いながら連携する機会です。輪番制で当番校が決まり年に3回（花まつり・成道会・涅槃会）の行事を行います。今年度は本校が当番校です。当番校には他のすべての学校の代表生徒が集まります。

会場が光風館の講堂ということもあり、「学園花まつり」とは違って厳粛な雰囲気の中で進行しました。本校の全校生徒による集会のあり様を他校の人たちに知ってもらおう絶好の機会であったとも思います。司会・献灯・献花・焼香・散華・灌仏、そして合唱、更に会を盛り上げてくれた吹奏楽部と、代表生徒たちも本当によく頑張ってくれました。客席の参加者も含めて全員が素晴らしい態度で臨みました。参加した他校生たちは『ここまでやるかっ！』と驚いたことだろうと思います。

2つの「花まつり」を通じて、改めて宗教行事の大切さに気付いた思いです。これらの行事の中で、生徒たちは確実に自分を見つめ、心を豊かにしています。



2024. 4. 17. (WED).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『順調な滑り出し』

私事から書き始めることをご容赦ください。実は昨晚、我が家に新しい命を授かりました。二世帯住宅で暮らす息子夫婦のもとに長女の誕生です。私には2人の息子がおりますが、女の子は初めてです。あっいや、檸檬ちゃん(愛犬です)ごめんね。大切な姫の貴女のことを忘れていたわけではありません。ただ、既に12歳を越えて人間の年齢としては私を越してしまったかもしれませんので…(笑)。

午後9時を過ぎた頃、妻と病院に行きました。保育器に入った赤ちゃんをガラス越しに見るものと思っていたのですが、何と触れる状態で初対面をしました。小さな命は、一生懸命に泣き、お母さんのおっぱいを探しているのか首を左右に動かしています。まだ目も開きませんが初孫の誕生を心から嬉しく思います。初めて父親になったときと初めておじいちゃんになった今では少し気持ちが異なりますが、どうか元気にスクスクと育てほしいと昨晚からそればかりを願っています。



さて、本校生徒たちの令和6年度のスタートはというと、概ね順調です。毎朝校門で生徒を迎えています。中高新1年生とのやり取りが何とも新鮮です。中には内部進学した人もいますが、それでもそれぞれ中高の新しい制服に身を包んでいるだけでワンステップ上での生活に成ったんだと思えるのが不思議です。

今朝は、こんなことがありました。警備員さんと話をしていると「すみません！」と声をかけられました。「今日初めて自転車で来たんですけど、何処にとめればいいですか?」「このまま真っ直ぐに進んでいくと地下の駐輪場へ入るスロープがあって…」とそこまで言ったときに自転車を押した3年生が通りました。「この先輩に付いていったらいいよ。」と内容を改めました。心の中で3年生に対して『宜しく頼むね!』と念じながら。また、職員朝礼が始まる時間が迫ってきたので、校舎に入ろうとした時です。2人の中学新生が私の前に止まり、照れくさそうに聞き取れないくらいの声で言いました。「あの一、保健室は何処ですか」「よっしゃ、ついて来て!一緒に行こう!」こんな何でもない会話ですが、それをとても新鮮で楽しく感じています。

授業を観て回るのを日課にしています。授業が始まって約1週間、授業を受けているどの姿も穏やかで落ち着いています。内部進学生と外部生が交じり合った新しいメンバーでの学級には独特の緊張感もあるようです。また、互いのことを知り合っている中高2・3年生にしても、新しい先生との出会いがあります。今後、生徒たちも先生の方も徐々にお互いのことを理解し合い、心の距離を詰めていくのだろうと思いつつ授業の様子を見ていると何とも言えずワクワクした気持ちになります。

今の新鮮な気持ちを忘れず1年間を過ごしてほしいと思います。新しい命のために私のできることを考えながら、目の前の生徒に対してできることを考え続けます。

2024. 4. 10. (WED).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『R6のスタート』

8日に始業式、9日には入学式を行って令和6年度が正式にスタートしました。手前味噌で恐縮ですが、教職員の協力と生徒の頑張りのお蔭でどちらの式もとてもよかったと思っています。始業式と入学式の様子をここに記録しておきます。

これら2つの式で生徒に提示したのが今年度のキャッチフレーズです。これについては、年度初めの職員会議で既に教職員とは共有しています。

“Ask what you can do for the KOKA!”で、「あなたが光華のためにできることを考えましょう。」と訳しました。

入学式では、中学1年生が対象になっているため理解が難しいだろうと思って“For the KOKA!”とだけ示しました。

このフレーズは第35代アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディーの就任演説から引用しました。大学受験を目指して勉強していたときにその文章に触れ、17~18歳の私は感動と衝撃を受けたことを覚えています。該当の部分を以下に示します。

“My fellow Americans, ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country. My fellow citizens of the world, ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man.”日本語訳はこうです。「我が同胞たるアメリカ国民よ。この国があなたに何をしてくれるのかではなく、あなたがこの国のために何ができるのかを問うてほしい。我が同胞たる世界の市民たちよ。アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく、共に人類の自由のために何ができるかを問おうではないか。」

2・3年生が対象の始業式では次のことも強調しました。目標を設定しそれに向けて努力をしてほしいと言った後です。目標が達成できなかったときに、その原因を厳しく自分へ向けてほしいということです。人はうまくいかなかったときや上手くいかないときにその原因を周りの人や環境に求めがちです。それではダメだと言いました。「何が悪かったのか!？」その原因を自分の中に求め、謙虚に反省して次に生かせる人が伸びていくのだと強く訴えもしました。

始業式では上の写真の通り、私の話を聞いた生徒たちの多くが自分の今年度の目標を発表しに登壇してきました。仮にうまくいなくても構いません。それに向かって精一杯の努力をすれば、それは必ずその人のそして京都光華のためになるのだと思うのです。さあ、焦らず慌てず、じっくりと定めた目標に向かって動き出しましょう。



2024. 4. 5. (FRI).

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『今年はどうな年に…』

今年は3月の気温が低く、おかげで校門の桜は今が見頃となっています。来週早々に始業式と入学式とを迎えることになるので、どうやら今年は桜の花が満開の新年度始まりとなりそうです。

そのような中、四月になって以来毎日、全教職員は新年度の準備を進めています。初めて学級担任をする教員もいれば、まったく新しい仕事に携わることになる者もいて、教職員の方も“ドキドキ”と“ワクワク”の両方の気持ちをもって行動しているはずです。

さて、私かというと、何も分からず赴任した昨年度とはかなり気持ちが異なります。

久しぶりに学校の最前線に戻ってきた昨年度は、断然“ワクワク”感が“ドキドキ”感に勝っていました。しかし、今年度の気持ちはすこし違っているのです。一年間を過ごしてみて、本校の課題を「我がこと」として感じているからです。もちろん、課題のない社会などありません。それを一つひとつ解決しながら進んでいくのが社会であり組織です。もちろん学校もそうです。一人の生徒が背負わされている課題、本校生徒全体に共通する課題、また今学校が直面している課題もあって、どれもこれも、とても簡単に解決できるものではなさそうです。新たな年度を迎えるにあたって、一つひとつに丁寧に向き合い、解決していこうと決意を新たにしているところです。

こういったことはこれまでも経験したことがありました。その際、その状況をどのようにして抜け出してきたかを思い返してみるといつも同じ解決方法をとってきたことに気づきます。ここは学校です。生徒がいます。ですから生徒の抱える課題の解決が最優先です。生徒一人ひとりが本校の課題を作っています。だから目の前の一人の生徒の課題解決に目を向け、教職員が力を結集して取り組むのです。そうすると、いつの間にか不思議と他の課題までが次々と解決するということが幾度も経験しました。

今回のエッセイのテーマを『今年はどうな年になるのか』としようと思いましたが考え直しました。それでは先月の修了式に全校生徒と全教職員とで確認した“上向き、前向きな考え方・生き方”に反するからです。そうすると、テーマを次のように改めるべきであると気づきました。『今年はどうな年にしようか』です。

昨年度赴任した時にどんな時も「この子らと共に」過ごそうと決めました。新しく入学してくる123人の生徒を含め、新しい京都光華中学校高等学校がスタートします。ほとんどの生徒たちは新年度に対して“不安”よりも圧倒的に“期待”をしているはずで、多くの学校の中から本校を選んで進学して来てくれた生徒たちに丁寧に向き合い、その子たちの個性と能力を大切に、それを十分に引き出し伸ばします。

目の前の生徒を徹底的に大切にすること、それが本校の信条です。そうして、生徒のキラキラと輝く姿を見ることが私たちの喜びです。令和6年度も頑張りましょう。



※カナダの高校生との交流会より